

ウィーン観光事情

山田 徹雄

Wiener Tourismus

Tetsuo YAMADA

要 旨：ウィーンは、文化的な魅力によって、多数の観光客を吸引しているが、一方では国際的な会議都市としての特徴をも備え、経済効果においては後者の果たす役割は多大である。ウィーン旅行者においては、ヨーロッパを起点とするものが多くを占め、とくにドイツ語圏を起点とするものが全体の4割以上を占めている。アメリカ、日本のようにウィーンから距離的な隔りがある地域からの旅行者は、ヨーロッパ旅行における目的地の一つとしてウィーンを訪れているが近隣からの旅行者は、ウィーンのみを訪問する傾向が強い。

はじめに

ヨーロッパ大陸における都市観光は、パリ、ベルリン、ローマ、マドリード、バルセロナ、プラハ、ミュンヘンなどいくつかの中心都市が対象となっている。本稿でとりあげるウィーンは観光都市としてミュンヘンと同程度の規模を有している⁽¹⁾。内外からの旅行者の動向を分析し、観光都市ウィーンの特徴を明確化することを、本稿の課題とした。

1. ウィーン市と観光客

1-1. ウィーン観光に関するアンケート調査

ウィーン旅行者のおよその見取り図を描くために、「オーストリア観光モニター」によるアンケート調査『ウィーン顧客アンケート』⁽²⁾を手掛かりに、ウィーン観光を概観する。

この調査が示しているウィーン観光客像（〔表1〕参照）は、以下のように要約できる。

- (1) 旅行者は、ウィーンの文化的な魅力を求め、学歴水準が高く、また比較的所得水準が高い。
- (2) 所得水準の高さは、宿泊するホテルの格付けの高さに反映されている。
- (3) この調査では、宿泊日数が比較的長期になっているが、このことは、ビジネス旅行者が調査対象に含まれていないこと⁽³⁾、と関係があるであろう。
- (4) ウィーン旅行者のおよそ8割が、あわせて他の地域における宿泊予約をしていないことから、専らウィーンを見学する行動が読み取れる。
- (5) ウィーンに至る交通手段に関しては、半数近くの旅行者が航空機を利用している。そのうち、21%が低運賃航空会社の搭乗者である⁽⁴⁾。
- (6) バス利用者が少ないのは、バスを利用するグループ旅行者の旅行スケジュールが過密であるために、アンケート調査協力が少なかったことが原因となっている⁽⁵⁾。

表1 ウィーン旅行アンケート結果

旅行者に対する質問項目	多回答選択肢
職業	勤め人 (Angestellte) 39% 自営 (Selbstständig) 16%
学歴	マチューラ (Matura) 44% 大学卒 (Universität/FH) 43%
旅行者一人当たり平均月収	€1,459 最多月収帯 €3,600以上 42%
ウィーン滞在頻度	初めて 40%
旅行者類型	文化・見学旅行者 (Kultur- / Besichtigungsgast) 26% 景観旅行者 (Szenegast) 23% 催し物旅行者 (Anlassgast) 19% 多面的関心旅行者 (Vielseitig interessierter Stadt-/Kulturgast) 18% 保養旅行者 (Erholungsgast) 14%
旅行形態	個人旅行者 (Individualtourist) 68% パック旅行者 (Pauschaltourist) 32%
観光地ウィーンの決定理由	芸術・文化 (Kunst- und Kulturangebot) 71% 名所 (Sehenswürdigkeiten) 70%
ウィーンへの交通手段	航空機 (Flugzeug) 46% 自家用車 (Eigenes Auto) 32% 鉄道 (Bahn) 15% バス (Bus) 4%
同行者	カップル (Paare) 32% 一人 (Alleine) 19% 友人 (Freunde) 19%
ウィーンにおける宿泊日数	3～5泊 (3 bis 5Nächte) 62% 6～9泊 (6 bis 9 Nächte) 18% 2泊以内 (Bis zu 2 Nächte) 16%
ウィーン以外の宿泊予約	なし (Nein) 78%
宿泊ホテルの格付け	4つ星 (4 Stern) 39% 3つ星 (3 Stern) 30%

(注) Anlassgast の Anlass とは、標準ドイツ語では Veranstaltung にあたる。オーストリアでは Abitur を Matura と呼ぶ。
(典拠) WG, p.3～16より作成

1-2. 観光空間ウィーン

オーストリア観光において、ウィーンはどのような位置を占めているのであろうか。〔表2〕は、宿泊者数および宿泊件数におけるウィーンの占有率を示している。宿泊者数を基準とみるとウィーンはオーストリア観光のおよそ14%を占めているにすぎないが、宿泊件数においてはそれが3割以上を占めていることがわかる。とくに外国からの旅行者において、ウィーン占有率はおよそ37%にのぼっている。

表2 オーストリア観光客に占めるウィーンの割合

宿泊件数を基準とするウィーンの占有率	32.56%
同、オーストリア居住者の場合	18.08%
同、外国居住者の場合	36.96%
宿泊者数を基準とするウィーンの占有率	13.58%

(典拠) Österreich Werbung, Tourismus in Österreich 2009, および Wiener Tourismusverband, *Tourismus-Bilanz 2009*, p.28-29をもとに算出

オーストリアの観光対象には、ティロルやザルツカンマーグートのような有力な自然の景勝地が含まれていることから、ひとまず都市観光におけるウィーン的位置を確定する。宿泊者数を基準にする〔表3A〕によると、オースト

リア都市観光におけるウィーンの占有率はおよそ58.8%であり、それに次ぐザルツブルク（15.2%）、インスブルック（8.9%）を大きく引き離している。宿泊件数による比較では、その差はさらに拡大し、ウィーンの占有率は6割を超える。（〔表3B〕参照）このことからオーストリア都市観光におけるウィーンへの集中度は決定的にみえる⁽⁶⁾。

表3A オーストリアの都市観光（宿泊者数による比率）
2009年

都 市	比率 (%)
ウィーン (Wien)	58.8
ザルツブルク (Salzburg)	15.2
インスブルック (Innsbruck)	8.9
グラーツ (Graz)	5.7
リンツ (Linz)	5.7
クラゲンフルト (Klagenfurt)	2.3
ブレーゲンツ (Bregenz)	2.3
ザンクト・ペルテン (St. Pölten)	0.9
アイゼンシュタット (Eisenstadt)	0.4

(典拠) Österreich Werbung, Städtetourismus in Österreich 2009

表3B オーストリアの都市観光（宿泊件数による比率）
2009年

都 市	比率 (%)
ウィーン (Wien)	63.7
ザルツブルク (Salzburg)	13.3
インスブルック (Innsbruck)	7.6
グラーツ (Graz)	5.1
リンツ (Linz)	4.8
クラゲンフルト (Klagenfurt)	2.3
ブレーゲンツ (Bregenz)	1.9
ザンクト・ペルテン (St. Pölten)	0.9
アイゼンシュタット (Eisenstadt)	0.4

(典拠) Österreich Werbung, Städtetourismus in Österreich 2009

次にウィーン周辺を含めた広域におけるウィーン市の位置を見ると〔表4〕のようになる。

ドイツ語表記 Wien & Umlandgemeinden、英語表記 Greater Vienna を「ウィーン大都市圏」と呼ぶことにしよう。宿泊件数において、ウィーン大都市圏におけるウィーン市の占有率は93.6%に相当する。つまりウィーン市は周辺部への広がりをもたない孤立した観光空間であるといえる。

表4 ウィーン大都市圏 (Wien & Umlandgemeinden, Greater Vienna) における宿泊件数比率

ウィーンと周辺ゲマインデ	宿泊件数	比率 (%)
ウィーン (Wien)	9,842,827	93.6
シュヴェヒャト (Schwechat)	254,044	2.4
フェーゼンドルフ (Vösendorf)	192,409	1.8
クロスターノイブルク (Klosterneuburg)	110,767	1.1
グロス・エンツェルスドルフ (Groß-Enzersdorf)	36,871	0.4
メードリンク (Mödling)	32,700	0.3
ブルン・アム・ゲビルゲ (Brunn am Gebirge)	25,533	0.2
ペルヒトルツドルフ (Perchtoldsdorf)	21,723	0.2
合計	10,516,874	100.0

(典拠) Wiener Tourismusverband, *Tourismus-Bilanz 2009*, p.28

ウィーン市に宿泊する旅行者の季節変動を示すのが〔表5〕である。宿泊者数、宿泊件数において最頻値は8月である。宿泊者数が40万人以上となるのは、7～10月およびクリスマスマーケットが開かれる12月である。宿泊件数においては、90万件を越すのは、5月、7～10月および12月である。一方、売上の上位は、9月、10月、5月、12月であり必ずしも観光客の多い8月とは一致しない。この齟齬はどこから生じるのであろうか。ここでは「観光」目的ではないビジネス客、国際会議出席者がウィーンに滞在する可能性があることをあらかじめ指摘していきたい。

表5 ウィーン市観光の季節変動

月	宿泊者	宿泊件数	一人当たり 平均宿泊日	売り上げ (百万ユーロ)
1	250,820	554,673	2.21	22.6
2	228,065	484,811	2.13	19.5
3	309,016	674,367	2.18	33.1
4	356,723	806,201	2.26	32.1
5	398,995	916,499	2.30	41.7
6	379,132	837,254	2.21	38.7
7	416,688	972,890	2.33	33.9
8	450,606	1,071,606	2.39	32.3
9	419,502	966,778	2.30	53.3
10	408,625	934,417	2.29	45.2
11	345,926	708,414	2.05	31.6
12	421,429	915,917	2.17	40.7
合計	4,385,529	9,842,827	2.24	424.7

(注) 宿泊施設売り上げには、朝食、暖房費、売上税を含まない。
(典拠) Wiener Tourismusverband, *Tourismus-Bilanz 2009*, p.29より作成

表6 ウィーン市における宿泊収容能力(ホテル、ペンション)の変化

年度	営業中の 宿泊施設	ベッド数
2001	353	40,061
2002	353	39,579
2003	359	39,641
2004	367	41,682
2005	366	42,692
2006	371	43,753
2007	373	44,414
2008	386	49,005
2009	400	50,911
2010	409	53,333

(典拠) Wiener Tourismusverband, *Tourismus-Bilanz 2009*, p.31より作成

2. ウィーンと交通

2-1. ウィーン空港と市内交通

ウィーン空港は、株式会社の形態を取り、株式の50%が公開されている。株主構成は、ウィーン市 (Stadt Wien) が20%、ニーダーエスターライヒ州 (Land Niederösterreich) が20%、従業員基金 (Mitarbeiterstiftung) が10%の持分を所有する以外の50%は浮動株であり、浮動株のうち、5.07%をジルチェスター・インターナショナル・インヴェストメント・リミテッド (Silchester international Investors Limited, London) が保有している⁽⁷⁾。

空港から市内への交通は、30分間隔のタクト運行されているCAT (City Airport Train) によって16分でウィーン中央 (Wien-Mitte) に到着できる⁽⁸⁾。同区間は、Sバーンを利用した場合には所要時間は24分である⁽⁹⁾。

ウィーン中央 (Wien-Mitte) は、Sバーンの「中央駅」であり、ÖBBの中央駅 (Hauptbahnhof Wien) は、現在の南駅に隣接して建設中である⁽¹⁰⁾。

上記の鉄道と同様に、ÖBBの運行するバス路線 (Vienna Airport Lines (Postbus)) 3系統によって、市中心部 (Morzinplatz/Schwedenplatz)、西駅方面 (Wien Meidling → Wien Westbahnhof) および市東部を経由したドナウ方面 (Kaisermühlen VIC → Wien Kagran) への連絡がなされている⁽¹¹⁾。

このようにウィーン空港から市内へのアクセスは容易であり、市内の交通はSバーン、路面電車およびバスによって有機的なネットワークが形成され、交通インフラを拡充するための積極的な投資がなお進行している⁽¹²⁾。

2-2. ウィーン空港と空間的輸送関係

ウィーン空港における搭乗者数を航空会社別にみると、[表7] のようになる。オーストリアのフラッグキャリアであるオーストリア航空が搭乗者の半数を集め、LCCのニキ (NIKI Luftfahrt)、準LCCのエア・ベルリンがそれに次いだ搭乗者を集めている。なお、[表7] 中にあるスロバキアのLCC、スカイヨーロッパは2009年9月に経営破綻している⁽¹³⁾。

表7 航空会社別搭乗者数（2009年度）

航空会社 (IATA-Code)	搭乗者数	比率 (%)
オーストリア航空グループ (OS)	8,958,264	49.5
ニキ (HG)	1,663,381	9.2
エア・ベルリン (AB)	1,365,801	7.5
ルフトハンザ (LH)	1,019,542	5.6
スカイヨーロッパ (NE)	479,598	2.6
ジャーマンウイングズ (4U)	387,808	2.1
スイス・インターナショナル (LX)	344,749	1.9
ブリティッシュ・エアウェイズ (BA)	333,063	1.8
エール・フランス (AF)	292,953	1.6
トルコ航空 (TK)	219,309	1.2
その他	3,049,635	16.8
合計	18,114,103	100.0
うち、LCC	4,188,868	23.1

(注) 準LCCであるエア・ベルリンはLCCとして算出。

(典拠) Flughafen Wien AG, *Geschäftsbericht 2009*, "Alles, Was Zählt", p.25

ウィーン空港に到着する定期直行便について、国別に集計すると、〔表8〕～〔表14〕のようになる。集計にあたり、週あたりの便数について比較し、短期的な季節便は除外した⁽¹⁴⁾。

2-2-1. ドイツとウィーンの航空路

ドイツとの連絡についてキャリア別にみると、ルフトハンザ、オーストリア航空、アドリア航空（スロベニア）などのフラッグキャリアと並んで、準LCCであるエア・ベルリン、LCCのニキ、ジャーマンウイングズ、インタースカイが運行されている⁽¹⁵⁾。

ドイツとの航空路ほど、低運賃航空会社が運行されている例は他の国との航空路には見当たらない。

出発地の空港を州別に整理すると、ノルトライン・ヴェストファーレン（115便）、ヘッセン（104便）、バイエルン（87便）、バーデン・ヴュルテンベルク（78便）、ベルリン（58便）、ハンブルク（58便）などとなる。〔表8〕

2-2-2. ウィーンと国内線航空路

オーストリア国内線は、オーストリア航空による運航が大部分を占め、インスブルック線のみ、LCCであるニキが運行している。地域的にはティロル州の州都（インスブルック）、ケルンテン州の州都（クラゲンフルト）、ザルツブルク州の州都（ザルツブルク）、シュタイアーマルク州の州都（グラーツ）などオーストリア全体との連絡が形成されている。〔表9〕

2-2-3. ウィーンとイタリア航空路

イタリアとの連絡においては、オーストリアのフラッグキャリアによる運航が大半であるが、イタリアの元フラッグキャリア、アリタリア航空のローマ線のほかニキがローマおよびミラノに運行しているが、LCCの比重は大きくない。

地域的には、首都ローマ便および運行の少ないナポリ便（南部）、フィレンツェ便（中部）を除けば、北部イタリアとのネットワークが航空路の中心である。〔表10〕

表8 ドイツ各地との連絡（合計514便）

空港 (IATA-Code) 航空会社 (IATA-Code)	週あたり便数
フランクフルト/マイン (FRA)	104
アドリア航空 (JP)	16
オーストリア航空 (OS)	35
ルフトハンザ (LH)	35
ニキ (HG)	18
ミュンヘン (MUC)	70
ルフトハンザ (LH)	33
ニキ (HG)	21
オーストリア航空 (OS)	26
デュッセルドルフ (DUS)	66
エア・ベルリン (AB)	36
ルフトハンザ (LH)	26
オーストリア航空 (OS)	14
ベルリン (TXL)	58
オーストリア航空 (OS)	20
エア・ベルリン (AB)	38
ハンブルク (HAM)	58
エア・ベルリン (AB)	20
ルフトハンザ (LH)	38
ケルン/ボン (CGN)	49
ジャーマンウイングズ (4U)	19
エア・ベルリン (AB)	12
オーストリア航空 (OS)	18
シュトゥットガルト (STR)	45
オーストリア航空 (OS)	26
ジャーマンウイングズ (4U)	19
ハノーファー (HAJ)	30
エア・ベルリン (AB)	18
ジャーマンウイングズ (4U)	12
フリードリヒスハーフェン (FDH)	21
インタースカイ (3L)	21
ニュールンベルク (NUE)	17
エア・ベルリン (AB)	17
カールスルーエ (FKB)	12
エア・ベルリン (AB)	12
ドレスデン (DRS)	6
エア・ベルリン (AB)	6

(典拠) Flughafen Wien, *Flugplan gültig 28.03.2010-30.10.2010*をもとに作成

表9 オーストリア国内との連絡（合計131便）

空港 (IATA-Code) 航空会社 (IATA-Code)	週あたり便数
インスブルック (INN)	59
オーストリア航空 (OS)	41
ニキ (HG)	18
クラゲンフルト (KLU)	34
オーストリア航空 (OS)	34
ザルツブルク (SZG)	26
オーストリア航空 (OS)	26
グラーツ (GRZ)	22
オーストリア航空 (OS)	22

(典拠) Flughafen Wien, *Flugplan gültig 28.03.2010-30.10.2010*をもとに作成

表10 イタリアとの連絡（合計128便）

空港 (IATA-Code) 航空会社 (IATA-Code)	週あたり便数
ローマ (FCO)	41
アリタリア (AZ)	14
ニキ (HG)	13
オーストリア航空 (OS)	14
ミラノ・マルペンサ (MXP)	38
オーストリア航空 (OS)	27
ニキ (HG)	11
ミラノ リナーテ (LIN)	6
オーストリア航空 (OS)	6
ヴェネツィア (VCE)	21
オーストリア航空 (OS)	21
ヴェローナ (VRN)	13
エア・ドロミティ (EN)	13
フィレンツェ (FLR)	7
オーストリア航空 (OS)	7
ナポリ (NAP)	2
オーストリア航空 (OS)	2

(典拠) Flughafen Wien, *Flugplan gültig 28.03.2010-30.10.2010*をもとに作成

2-2-4. ウィーンとフランス航空路

フランスとの交通は、フラッグキャリアであるエール・フランス、オーストリア航空に加えて、低運賃航空会社であるニキが運行されている。便数においては圧倒的に伝統的・フラッグキャリアのシェアが高い。

地域では、パリからの直行便が大半を占めているが、これはフランスにおける航空ネットワークの構成を反映している¹⁶⁾。〔表11〕

2-2-5. ウィーンとイギリス航空路

イギリスとの航空路を運行するオーストリア航空、ブリティッシュ・エアウエイズ、bmi⁽¹⁷⁾、エア・リンガス⁽¹⁸⁾はすべて、伝統的航空会社の系譜を有するエアラインである。起点となる空港はイングランドの首都ロンドンとアイルランドの首都ダブリンに限られている。〔表12〕

2-2-6. ウィーンとロシア航空路

ロシアとの航空路においては、モスクワの2空港、サンクト・ペテルブルクとの連絡に限られている。ここで運行している航空会社はニキを除けば、低運賃航空会社はない⁽¹⁹⁾。〔表13〕

2-2-7. ウィーンとスペイン航空路

オーストリアの旅行会社の企画で、フェルトヴェントユラ (Fuerteventura)、ラス・パルマス (Las Palmas)、パルマ・デ・マジョルカ (Palma de Mallorca) などスペインの本土以外とチャーター便および定期便が運航されているが、こういった地域からウィーン観光を目指すものはない⁽²⁰⁾。

2008年秋にスペイン発のクリックエア (Clickair)⁽²¹⁾、スパンエア (Spanair)⁽²²⁾によるウィーン線、週19便が廃止された。スイス航空によるチューリッヒ乗換、ルフトハンザによるミュンヘン、フランクフルト乗換、ブリュッセル航空によるブリュッセル乗換、ニキ/エア・ベルリンによるパルマ・デ・マジョルカ乗換によってスペインの各都市からウィーンに向かうことができるが⁽²³⁾、ウィーンに向かう乗り継ぎ便の検証は困難であるので、ここではスペイン本

表11 フランスとの連絡 (合計114便)

空港 (IATA-Code) 航空会社 (IATA-Code)	週あたり便数
パリ (CHD)	66
エール・フランス (AF)	28
ニキ (HG)	17
オーストリア航空 (OS)	21
ニース (NCE)	28
オーストリア航空 (OS)	21
ニキ (HG)	7
リヨン (LYS)	20
オーストリア航空 (OS)	20

(典拠) Flughafen Wien, *Flugplan gültig 28.03.2010-30.10.2010*をもとに作成

表12 イギリスとの連絡 (合計69便)

空港 (IATA-Code) 航空会社 (IATA-Code)	週あたり便数
ロンドン (LHR)	63
bmi (BD)	14
ブリティッシュ・エアウエイズ (BA)	28
オーストリア航空 (OS)	21
ダブリン (DUB)	6
エア・リンガス (EI)	6

(典拠) Flughafen Wien, *Flugplan gültig 28.03.2010-30.10.2010*をもとに作成

表13 ロシアとの連絡 (合計58便)

空港 (IATA-Code) 航空会社 (IATA-Code)	週あたり便数
モスクワ・ドモジドヴォ (DME)	35
オーストリア航空 (OS)	21
トランスアエロ航空 (UN)	7
ニキ (HG)	7
モスクワ・シェレメーチェヴォ (SVO)	14
アエロフロート (SU)	14
サンクト・ペテルブルグ (LED)	9
ロシア航空 (FV)	2
オーストリア航空 (OS)	7

(典拠) Flughafen Wien, *Flugplan gültig 28.03.2010-30.10.2010*をもとに作成

表14 スペイン本土との連絡 (合計35便)

空港 (IATA-Code) 航空会社 (IATA-Code)	週あたり便数
バルセロナ (BCN)	21
オーストリア航空 (OS)	14
ニキ (HG)	7
マドリード (MAD)	14
イベリア航空 (IB)	14

(典拠) Flughafen Wien, *Flugplan gültig 28.03.2010-30.10.2010*をもとに作成

土と結ばれる直行便のみをとりあげる。

スペイン～ウィーン間には、スペインのフラッグキャリアであるイベリア航空、オーストリアのフラッグキャリアであるオーストリア航空に加えて、ニキが運行している。〔表14〕

3. ウィーン旅行者の居住地

ウィーン市に宿泊する旅行者の件数をみると、ドイツ居住者がもっとも多く、オーストリアからの旅行者がこれに次ぎ、両者をあわせるとドイツ語圏からの宿泊者が4割を占める。以下、大幅な格差をもってイタリア、アメリカ合衆国、イギリス、スペイン、フランスと続く。〔表15A〕参照

2003年における同種の統計と比較すると、国内からの旅行者が増加したことが分かる。もっとも減少したのは日本人旅行者であった。〔表15B〕参照

なお、日本人の最頻値は1998年における377,235件であり、その後この値を上回ることにはなかった²⁴⁾。

表15A ウィーン市における宿泊件数（2009年）

居住国	宿泊件数 (Nächtigungen)	比率 (%)
ドイツ	2,076,866	21.1
オーストリア	1,970,301	20.0
イタリア	560,469	5.6
アメリカ合衆国	507,905	5.2
イギリス、北アイルランド	358,630	3.6
スペイン	308,079	3.1
フランス、モナコ	284,871	2.9
スイス、リヒテンシュタイン	284,148	2.9
ロシア	283,809	2.9
ルーマニア	272,446	2.8
日本	267,749	2.7
オランダ	187,430	1.9
その他	2,480,124	25.2
合計	9,842,827	100.0

(典拠) Wiener Tourismusverband, *Tourismus-Bilanz 2009*, p.28

表15B ウィーン市における宿泊件数（2003年）

居住国	宿泊件数 (Nächtigungen)	比率 (%)
ドイツ	1,874,417	23.6
オーストリア	1,413,125	17.8
イタリア	688,142	8.7
アメリカ合衆国	526,133	6.6
イギリス、北アイルランド	341,972	4.3
日本	274,600	3.5
スペイン	261,405	3.3
スイス	258,162	3.2
フランス	236,222	3.0
独立国家共同体 GUS (CIS)	195,815	2.5
その他	1,885,083	23.7
合計	7,955,076	100.0

(典拠) Wiener Tourismusverband, *Tourismus-Bilanz 2003*, p.14

4. 国別観光客の類型

ウィーン宿泊者の居住する地域の上位にあった、ドイツ、オーストリア、アメリカ、イギリス、スペイン、フランス居住者と日本人観光客の行動について、以下において分析する。

4-1. ドイツ人観光客

ドイツ人にとって、ウィーンはオーストリアにおいて傑出した観光地ではない。オーストリアに宿泊するドイツ人の宿泊件数を地域別に分類すると、〔表16〕のようになる。ドイツ人はむしろ自然の景勝地を好んで旅行していることがわかる。

表16 ドイツ人宿泊件数にみるオーストリア観光空間

順位	地域（州）	地域分布（％）
1	ティロル（Tirol）	45.3
2	ザルツブルク（Salzburg）	20.0
3	フォアアールベルク（Vorarlberg）	10.1
4	ケルンテン（Kärnten）	9.8
5	シュタイアーマルク（Steiermark）	4.2
6	ウィーン（Wien）	4.2
7	オーバーエスターライヒ（Oberösterreich）	3.5
8	ニーダーエスターライヒ（Niederösterreich）	2.0
9	ブルゲンラント（Burgenland）	0.9
	合計	100.0

（典拠）Wien Tourismus, Deutschland Marktdatenblatt, in interrete sub: <http://www.wien-tourismus.at/data/maerkte/deutschland.pdf>, 10.08.2010

このように、ドイツ人にとってウィーンは観光目的地としては大きな意義を有していないが、ウィーンから見るとドイツ人観光客への依存度はきわめて高い。（〔表15A〕、〔表15B〕参照）ドイツのなかでは、南ドイツのバイエルン、バーデン・ヴュルテンベルクからの来訪者のみならず、ノルトライン・ヴェストファーレン、ベルリンからの旅行者も多くみられる。これらの居住地域と出発地の空港との対応関係が明確に見られる。（〔表8〕参照）

ウィーン旅行者全体にみられる特徴（〔表1〕参照）を反映して、ドイツ人の場合も比較的高い学歴、年収を有するものが、比較的高級なホテルに宿泊する傾向が見られる。

交通手段において航空機を利用するものと並んで、多くの自家用車利用者が存在する。前者のうち、低運賃航空会社を利用しているものの比率が53%を占めている。これは他の国からの旅行者と比較して著しい特徴であるが、LCCあるいは準LCCがドイツ各地とウィーンとの間に開設されていることの反映であろう。（〔表8〕参照）

表17 ドイツ人旅行者の特性

項目	特性
居住地域	バイエルン（22%）、ノルトライン・ヴェストファーレン（17%）、バーデン・ヴュルテンベルク（12%）、ベルリン（12%）、ヘッセン（7%）、ハンブルク（6%）
平均年齢	43.4歳
職業	勤め人（Angestellte）（38%）
学歴	アビトゥア（44%）、大学卒（39%）

月収分布	€3,600以上 (24%)、€2,400-2,999 (22%)、€1,950-2,399 (20%)、€3,000-3,599 (19%)
ウィーン訪問頻度	初回 (42%)
旅行形態	個人旅行 (69%)、パック旅行 (31%)
観光地ウィーンの決定理由	名所 (81%)、芸術・文化 (73%)
ウィーンへの交通手段	航空機 (47%)、自家用車 (28%)
航空機利用者のうち、LCC 利用者	53%
同行者	カップル (40%)、単独 (18%)
ウィーン以外の滞在	なし (79%)
宿泊ホテルの格付け	4つ星 (40%)、3つ星 (28%)

(典拠) MANOVA GmbH, Gästeprofil Deutschland, Oktober 2008, p.2-18より作成

4-2. オーストリア人観光客

オーストリア人にとってウィーンは観光地としてどのように位置づけられるのであろうか。〔表18〕を手がかりに検討すると、旅行目的地としてのウィーンの占有率はきわめて低い。

表18 オーストリア人宿泊件数にみるオーストリア観光空間

順位	地域 (州)	地域分布 (%)
1	シュタイアーマルク (Steiermark)	19.5
2	ザルツブルク (Salzburg)	16.6
3	ケルンテン (Kärnten)	13.6
4	ニーダーエスターライヒ (Niederösterreich)	12.6
5	オーパーエスターライヒ (Oberösterreich)	11.9
6	ティロル (Tirol)	10.7
7	ブルゲンラント (Burgenland)	6.4
8	ウィーン (Wien)	5.9
9	フォアアールベルク (Vorarlberg)	2.6
	合計	100.0

(典拠) Wien Tourismus, Österreich Marktdatenblatt, in interete sub: <http://www.wien-tourismus.at/data/maerkte/oesterreich.pdf>, 10.08.2010

オーストリア人旅行者の起点をみると、国内の各地域 (州) から満遍なくウィーンを訪れている。高学歴、高収入である点はドイツ人と共通するが、平均年齢ははるかに若い。また、ウィーンを訪れる動機は多岐に亘っている。交通手段は自家用車もしくは鉄道を利用している。親戚・知人を訪問することによって、宿泊費が無料となっているケースもある。

表19 オーストリア人旅行者の特性

項目	特性
居住地域	ザルツブルク (18%)、シュタイアーマルク (15%)、ティロル (15%)、オーパーエスターライヒ (14%)、ケルンテン (14%)、ニーダーエスターライヒ (13%)
平均年齢	37.7歳
職業	勤め人 (Angestellte) (39%)
学歴	マトユラ (54%)、大学卒 (30%)

月収分布	€3,600以上 (31%)、€2,400-2,999 (26%)、€3,000-3,599 (14%)、€1,950-2,399 (13%)
ウィーン訪問頻度	複数回すでに訪問し、毎年訪れる (48%)、複数回すでに訪問し、定期的ではないが訪問 (40%)
旅行形態	基本的に個人旅行
観光地ウィーンの決定理由	さまざまな体験 (60%)、多面的動機 (58%)、催し物 (54%)、芸術・文化 (54%)、親戚・知人訪問 (51%)
ウィーンへの交通手段	自家用車 (65%)、鉄道 (26%)
同行者	単独 (31%)、カップル (26%)、友人 (25%)
ウィーン以外の滞在	—
宿泊ホテルの格付け	4つ星 (31%)、3つ星 (26%)、無料宿泊 (24%)

(典拠) MANOVA GmbH, Gästeprofil Österreich, Februar 2010, p.2-16より作成

4-3. イタリア人観光客

イタリア人旅行者の目的地としてウィーンの重要度はティロルについて大きい。とはいえ、ティロルの占有率 (35.3%) と比較すると、ウィーンのそれは19.3%にすぎず、ケルンテン (18.5%) と大差ない。

表20 イタリア人宿泊件数にみるオーストリア観光空間

順位	地域 (州)	地域分布 (%)
1	ティロル (Tirol)	35.3
2	ウィーン (Wien)	19.3
3	ケルンテン (Kärnten)	18.5
4	ザルツブルク (Salzburg)	14.1
5	シュタイアーマルク (Steiermark)	3.9
6	ニーダーエスターライヒ (Niederösterreich)	3.8
7	オーバーエスターライヒ (Oberösterreich)	2.8
8	フォアアールベルク (Vorarlberg)	1.8
9	ブルゲンラント (Burgenland)	0.5
	合計	100.0

(典拠) Wien Tourismus, Italien Marktdatenblatt, in interete sub: <http://www.wien-tourismus.at/data/maerkte/italien.pdf>, 10.08.2010

イタリア人観光客の居住地域をみるとトスカーナがイタリア中部に位置している以外は、北部イタリア居住者がウィーンを訪れていることがわかる。これは航空路の開設状況とほぼ一致している。([表10] 参照)

平均年齢もオーストリア人について若い。学歴、収入は比較的高いにもかかわらず、宿泊ホテルはそれほど豪華とはいえない。交通手段においては航空機利用者のほか、自家用車、鉄道利用者も見られる。

なお、航空機利用者のうち、低運賃航空会社利用率は14%である。この数値はドイツ人よりかなり低い水準である。

表21 イタリア人旅行者の特性

項目	特性
居住地域	トスカーナ Toscana (18%)、ラツィオ Lazio (14%)、ロンバルディア Lombardia (13%)、エミリア・ロマーニャ Emilia-Romagna (11%)、ヴェーネト Venetien (11%)、フリウーリ Friaul (8%)、ピエモンテ Piemont (7%)、トレンティーノ Trentino (7%)
平均年齢	38.6歳

職業	勤め人 (Angestellte) (42%)
学歴	大学卒 (47%) マトゥーラ (45%)
月収分布	€3,600以上 (24%)、€2,400-2,999 (21%)、€1,950-2,399 (20%)、€3,000-3,599 (18%)
ウィーン訪問頻度	初回 (47%)
旅行形態	個人旅行 (67%)、パック旅行 (33%)
観光地ウィーンの決定理由	名所 (82%)、芸術・文化 (75%)
ウィーンへの交通手段	航空機 (43%)、自家用車 (29%)、鉄道 (17%)
航空機利用者のうち、LCC 利用者	14%
同行者	カップル (33%)、友人 (17%)
ウィーン以外の滞在	なし (76%)
宿泊ホテルの格付け	3つ星 (39%)、4つ星 (38%)

(典拠) MANOVA GmbH, Gästeprofil Italien, Setmenber 2008, p.2-18より作成

4-4. イギリス人観光客

イギリス人にオーストリアのイメージを尋ねると、83%が風景と自然、69%が都市の名所と回答している⁽²⁵⁾。イギリス人にとって、観光空間としてのウィーンの位置づけは、この傾向を反映し、ティロル、ザルツブルクについて高いものとなっている。とはいえ、観光対象としてのティロルの重要性（占有率49.2%）と比較すると、ウィーンの吸引力はずっと小さい。

表22 イギリス人宿泊件数にみるオーストリア観光空間

順位	地域 (州)	地域分布 (%)
1	ティロル (Tirol)	49.2
2	ザルツブルク (Salzburg)	25.8
3	Wien	10.2
4	フォアアールベルク (Vorarlberg)	4.6
5	オーバーエスターライヒ (Oberösterreich)	3.4
6	ケルンテン (Kärnten)	2.7
7	シュタイアーマルク (Steiermark)	2.7
8	ニーダーエスターライヒ (Niederösterreich)	1.3
9	ブルゲンラント (Burgenland)	0.1
	合計	100.0

(典拠) Wien Tourismus, Großbritannien Marktdatenblatt, in interete sub: http://www.wientourismus.at/media/files-b2b/marktdaten-grossbritannien_28.08.2010

イギリス人観光客の大部分はイングランドからの来訪者である。高学歴、高い社会的地位、高収入が特徴的で宿泊には高級ホテルを利用している。この点においては、他の国からの旅行者と共通している。旅行形態においてパック旅行参加者が他のヨーロッパ諸国からの旅行者より著しく多い。交通手段では航空機を利用してウィーンに到着するものが9割を占めているが、低運賃航空会社の利用率は15%である。ライアンエア、イージージェットがウィーン便を開業していないことがその大きな要因であると考えられる。

表23 イギリス人旅行者の特性

項目	特性
居住地域	イングランド (76%)、ウェールズ (13%)、スコットランド (10%)、北アイルランド (1%)
平均年齢	41.4歳
職業	勤め人 (Angestellte) (35%)、自営 (selbständige) (20%)、管理職 (15%)
学歴	大学卒 (60%)
月収分布	€3,600以上 (50%)
ウィーン訪問頻度	初回 (66%)
旅行形態	パック旅行 (57%)、個人旅行 (43%)
観光地ウィーンの決定理由	名所 (83%)、芸術・文化 (80%)
ウィーンへの交通手段	航空機 (91%)
航空機利用者のうち、LCC 利用者	15%
同行者	カップル (38%)、友人 (17%)、単独 (15%)
ウィーン以外の滞在	なし (77%)
宿泊ホテルの格付け	4つ星 (48%)、3つ星 (22%)、5つ星 (19%)

(典拠) MANOVA GmbH, Gästeprofil Grossbritannien, Setmenber 2008, p.2-18より作成

これまでとりあげたヨーロッパ諸国からの旅行者は、ウィーンのみを旅行目的地とするのが通例であった。

4-5. アメリカ人観光客

オーストリアを旅するアメリカ人にとって、ウィーン的位置は決定的に重要である。観光対象としてのウィーン占有率は、それにつぐザルツブルクの2倍となっている。

表24 アメリカ人宿泊件数にみるオーストリア観光空間

順位	地域 (州)	地域分布 (%)
1	ウィーン (Wien)	43.3
2	ザルツブルク (Salzburg)	21.6
3	ティロル (Tirol)	18.6
4	ニーダーエスターライヒ (Niederösterreich)	4.4
5	シュタイアーマルク (Steiermark)	4.1
6	オーバーエスターライヒ (Oberösterreich)	3.2
7	フォアアールベルク (Vorarlberg)	2.5
8	ケルンテン (Kärnten)	1.9
9	ブルゲンラント (Burgerland)	0.4
	合計	100.0

(典拠) Wien Tourismus, USA Marktdatenblatt, in interete sub: <http://www.wien-tourismus.at/data/maerkte/usa.pdf>, 10.08.2010

高学歴、高い社会的地位、高収入、豪華なホテルの利用という点において、アメリカ人旅行者はイギリス人と共通している。パック旅行利用者は6割を越え、イギリス人旅行者とほぼ同水準である。ヨーロッパからの来訪者と決定的に異なるのは、ウィーン以外の訪問地をあわせて持っている点である。そのため、交通手段としての航空機の利用は85%にとどまっている。なお、低運賃航空会社の利用率は1%にすぎない。

表25 アメリカ人旅行者の特性

項目	特性
居住地域	ニューヨーク (17%)、カリフォルニア (12%)、テキサス (8%)、イリノイ (7%)、ワシントンD.C. (5%)
平均年齢	43.3歳
職業	勤め人 (Angestellte) (26%)、自営 (selbständige) (25%)、管理職 (19%)
学歴	大学卒 (61%)
月収分布	€3,600以上 (75%)
ウィーン訪問頻度	初回 (86%)
旅行形態	バック旅行 (61%)、個人旅行 (39%)
観光地ウィーンの決定理由	名所 (91%)、芸術・文化 (86%)
ウィーンへの交通手段	航空機 (85%)
航空機利用者のうち、LCC 利用者	1%
同行者	カップル (34%)、旅行団体 (18%)
ウィーン以外の滞在	あり (60%)
宿泊ホテルの格付け	4つ星 (44%)、3つ星 (26%)、5つ星 (22%)

(典拠) MANOVA GmbH, Gästeprofil USA, Oktober 2008, p.2-18より作成

4-6. スペイン人観光客

スペイン人のオーストリアにおける観光対象地はウィーンが過半数を占めている。この点、他のヨーロッパ諸国からの旅行者とは際立った特徴となっている。

表26 スペイン人宿泊者にみるオーストリア観光空間

順位	地域 (州)	地域分布 (%)
1	ウィーン (Wien)	51.3
2	ティロル (Tirol)	23.5
3	ザルツブルク (Salzburg)	12.5
4	ニーダーエスターライヒ (Niederösterreich)	3.3
5	フォアアールベルク (Vorarlberg)	2.9
6	オーバーエスターライヒ (Oberösterreich)	2.6
7	シュタイアーマルク (Steiermark)	2.2
8	ケルンテン (Kärnten)	1.5
9	ブルゲンラント (Burgerland)	0.2
	合計	100.0

(典拠) Wiener Tourismus, Spanien Marktdatenblatt, in interrete sub: <http://b2b.wien.info/media/files-b2b/marktdaten-spanien.31.08.2010>

居住地域においては、航空路の開設されているマドリッドおよびカタルーニャ (州都バルセロナ) からの旅行者が上位をしめる。ヨーロッパ国内にあっては、バック旅行利用者が多くみられるが、これはウィーンとスペインが地理的に離れているためであろう。なお、航空機利用者のおよそ2割が低運賃航空会社を利用し、この比率はドイツ居住者を除けば高い部類に属している。

表27 スペイン人旅行者の特性

項目	特性
居住地域	マドリード (34%)、カタルーニャ (18%)、アンダルシア (16%)、バレンシア (11%)
平均年齢	39.4歳
職業	勤め人 (Angestellte) (51%)、自営 (selbständige) (17%)
学歴	大学卒 (66%)
月収分布	€3,600以上 (40%)、€3,001~3,500 (32%)
ウィーン訪問頻度	初回 (75%)
旅行形態	パック旅行 (68%)、個人旅行 (32%)
観光地ウィーンの決定理由	名所 (89%)、都市景観・建築 (87%)
ウィーンへの交通手段	航空機 (93%)
航空機利用者のうち、LCC 利用者	19%
同行者	カップル (34%)、友人 (17%)
ウィーン以外の滞在	なし (71%)
宿泊ホテルの格付け	4つ星 (46%)、3つ星 (34%)

(典拠) MANOVA GmbH, Gästeprofil Spanien, Oktober 2008, p.2-18より作成

4-7. フランス人旅行者

フランス人の考えるオーストリア旅行とは、ティロルを対象とするものであり、ウィーンの比重は小さい。

表28 フランス人宿泊者にみるオーストリア観光空間

順位	地域 (州)	地域分布 (%)
1	ティロル (Tirol)	54.2
2	ウィーン (Wien)	16.5
3	フォアアールベルク8Vorarlberg)	10.8
4	ザルツブルク (Salzburg)	9.0
5	ニーダーエスターライヒ (Niederösterreich)	2.6
6	オーバーエスターライヒ (Oberösterreich)	2.5
7	ケルンテン (Kärnten)	2.3
8	シュタイアーマルク (Steiermark)	1.8
9	ブルゲンラント (Burgerland)	0.3
	合計	100.0

(典拠) Wiener Tourismus, Frankreich Marktdatenblatt, in interrete sub: <http://b2b.wien.info/media/files-b2b/marktdaten-frankreich>, 31.08.2010

フランス人旅行者の居住地域はイル＝ド＝フランスが41%を占めていることから、旅行の起点としてのパリが想起される。宿泊ホテルの格付けでは、他の外国人よりやや格付けの低い宿泊施設を利用し、この点ではイタリア人と同様である。

表29 フランス人旅行者の特性

項目	特性
居住地域	イル＝ド＝フランス (41%)、サントル (13%)、プロヴァンス＝アルプ＝コート・ダジュール (10%)、ロース＝アルプ (7%)
平均年齢	41.6歳

職業	勤め人 (Angestellte) (40%)、管理職 (18%)、自営 (selbständige) (14%)、
学歴	大学卒 (57%)、マチューラ (39%)
月収分布	€3,600以上 (42%)、€3,001~3,500 (18%)
ウィーン訪問頻度	初回 (64%)、2回目 (26%)
旅行形態	パック旅行 (58%)、個人旅行 (42%)
観光地ウィーンの決定理由	名所 (82%)、都市景観・建築 (77%)
ウィーンへの交通手段	航空機 (76%)
航空機利用者のうち、LCC 利用者	6 %
同行者	カップル (37%)、友人 (20%)
ウィーン以外の滞在	なし (67%)
宿泊ホテルの格付け	3つ星 (37%)、4つ星 (34%)

(典拠) MANOVA GmbH, Gästeprofil Frankreich, September 2008, p.2-18より作成

4-8. 日本人観光客

日本人にとって、オーストリア旅行といえば、ウィーンであるが、むしろヨーロッパ旅行の一環としてのウィーンであり、オーストリア旅行という認識は希薄であろう。

表30 日本人宿泊件数にみるオーストリア観光空間

順位	地域 (州)	地域分布 (%)
1	ウィーン (Wien)	60.8
2	ザルツブルク (Salzburg)	18.2
3	ティロール (Tirol)	7.2
4	ニーダーエスターライヒ (Niederösterreich)	5.6
5	オーバーエスターライヒ (Oberösterreich)	3.0
6	シュタイアーマルク (Steiermark)	2.8
7	ケルンテン (Kärnten)	1.1
8	フォアアールベルク (Vorarlberg)	1.0
9	ブルゲンラント (Burgenland)	0.3
	合計	100.0

(典拠) Wien Tourismus, Japan Marktdatenblatt, in interete sub: <http://www.wien-tourismus.at/data/maerkte/japan.pdf>, 27.08.2010

日本人旅行者の類型はアメリカ人と相似たのであるが、パック旅行参加者はアメリカ人以上に多く、75%に達している。また、アメリカ人以上にウィーン以外の訪問地を持っている。

そのため、利用交通手段としての航空機は100%に達しない。なお、低運賃航空会社の利用は0%である²⁶⁾。

表31 日本人宿泊者にみるオーストリア観光空間

項目	特性
居住地域	東京 (42%)、大阪 (19%)、沖縄 (7%)、長崎 (5%)、京都 (3%)
平均年齢	45.4歳
職業	勤め人 (29%)、管理職 (23%)、自営 (16%)
学歴	大学卒 (77%)
月収分布	€3,600以上 (75%)
ウィーン訪問頻度	初回 (83%)

旅行形態	パック旅行 (75%)、個人旅行 (25%)
観光地ウィーンの決定理由	名所 (90%)、芸術・文化 (88%)
ウィーンへの交通手段	航空機 (94%)
同行者	旅行団体 (45%)、カップル (27%)
ウィーン以外の滞在	あり (66%)
宿泊ホテルの格付け	4つ星 (59%)、3つ星 (20%)、5つ星 (16%)

(典拠) MANOVA GmbH, Gästeprofil Japan, September 2008, p.2-18より作成

このような日本人旅行者の特徴をウィーン観光協会は、以下のように総括する。

「日本人は以前と変わらず休暇旅行の予約に関して非常に保守的である。むしろこのことは年配者のグループにも当てはまることであるが。(日本人は)安全性を強く求めている。言葉の問題に対する心配や健康のリスクに対する不安が予約行動に影響を与えている。」^[27]

「旅行者全体の50.7%がパッケージツアーを予約している。…パッケージツアーのほぼ51%が古典的なフルパッケージツアーである。一方、およそ46%がフリータイムパッケージである。」^[28]

4-9. 各国旅行者の特徴

以上の各国旅行者の特徴を〔表32〕にまとめた。

一般に、旅行者の居住地に関して、ウィーンからの距離が大きいくほど、パック旅行を利用しウィーン以外にも目的地をもった旅行の一環としてウィーンを訪れている。オーストリアから離れた国に居住している旅行者はウィーン以外のオーストリアの魅力を未発見である。

これに対して、オーストリアに近接した国からの旅行者はウィーン以外のオーストリアの観光地を訪問する傾向が強い。彼らは、ウィーンをもつばらの旅行目的地とし、他の目的地とあわせて旅することは少ない。

表32 居住地別ウィーン旅行者の特徴

	ウィーン以外も旅行目的地とする比率%	同行者の傾向	旅行形態	州別にみたウィーン選好順位 (比率)
ドイツ	21	カップル	個人	6 (4.2%)
オーストリア	—	単独	個人	8 (5.9%)
イタリア	24	カップル	個人	2 (19.3%)
イギリス	23	カップル	バック	3 (10.2%)
アメリカ	60	カップル	バック	1 (43.3%)
スペイン	29	カップル	バック	1 (51.3%)
フランス	33	カップル	バック	2 (16.5%)
日本	66	旅行団体	バック	1 (60.8%)

5. ウィーンと会議

ウィーン訪問者の1/5がビジネス旅行者 (Geschäftareisende) であり、「ウィーン観光にとって会議部門は最も重要な収入源である」(Der Kongresssektor ist der wichtigste Einnahmequelle für Wiens Tourismus.) と指摘されている。平均的ウィーン訪問者が1日あたり276ユーロ支出しているのに対して、ビジネス旅行者のそれは420ユーロに達しているからである^[29]。

ICCA (International Congress and Convention Association) によって国際会議開催数ランキングが国別および都市別に毎年、公表されている。2009年度において、都市別国際会議開催数ランキングではウィーンが首位であった。

表33 都市別国際会議開催ランキング (2009年)

都 市	国際会議開催件数
ウィーン	160
バルセロナ	135
パリ	131
ベルリン	129
シンガポール	119
コペンハーゲン	103
アムステルダム	98
リスボン	98
北京	96
ブエノスアイレス	90
ソウル	90
ブダペスト	87
マドリード	87
プラハ	86
ロンドン	83
イスタンブール	80
サンパウロ	79
バンコク	76
アテネ	75

(典拠) ICCA, ICCA publishes country and city rankings 2009 in: Press Release, 05 August 2010 なお、プレス・リリース配布資料のヘッドには2001年8月5日午前5時42分発表と記されているが、明らかに2010年の誤りである。

なお、客観性を期すためにUIA (Union of International Association) による都市別国際会議開催ランキングを〔表34〕に示す。国際会議の定義の違いと年度の違いを考慮に入れても、ウィーンが国際会議都市として、認知を得ていることは確実である。

ウィーンにおいて開催される会議については、ウィーン・コンヴェンション・ビューローによって刊行される『ウィーン会議統計』が詳しい⁽³⁰⁾。これによると2008年には、ウィーンにおいて3,257件の会議が催され、これによって誘発されたGDPは、6億5千439万ユーロと推計されている⁽³¹⁾。

ウィーンにおいて開催されている「会議」には、国、各界の代表・委員が参加する kongress (Kongress, Verbandskongress) と企業主催のコーポレート・イベント (Firmenveranstaltung) がある。

会議開催数においては、コーポレート・イベントが kongress の3倍以上であるにもかかわらず、会議参加者および宿泊件数の点では、kongress とくに国際的 kongress のもつ意義の方が大きい。

表35 ウィーンにおける会議開催状況 (2008年度)

会議の種類別	開催会議件数	参加者	宿泊件数
kongress (Verbandskongress)	701	233,174	964,708
国内会議 (national)	231	60,722	78,619
国際会議 (international)	470	172,452	886,089
コーポレート・イベント (Firmenveranstaltungen)	2,556	136,720	296,786
国内会議 (national)	1,027	39,004	53,891
国際会議 (international)	1,529	97,716	242,895
合計 (Total)	3,257	369,894	1,261,494

(典拠) Vienna Convention Bureau, Wiener Tagungsstatistik 2008, p.4

表34 都市別国際会議開催ランキング (2008年)

都 市	国際会議開催件数
シンガポール	637
パリ	419
ブリュッセル	299
ウィーン	249
バルセロナ	193
東京	150
ソウル	125
ブダペスト	116
コペンハーゲン	104
ロンドン	103

(典拠) Union of International Association, Press Release June 2009, International Meeting Statistics 2008, in interrete sub: <http://www.uia.be/node/319227>, 25.08.2010

表36 ウィーン宿泊者における会議参加者比率

年 度	会議参加者宿泊件数／ウィーン総宿泊件数 (%)
1999	9.37
2000	8.86
2001	8.87
2002	9.27
2003	10.10
2004	10.53
2005	11.79
2006	12.36
2007	14.67
2008	12.33

(典拠) Vienna Convention Bureau, *Wiener Tagungsstatistik 2008*, p.5

小 括

ウィーンは、文化的な魅力によって、多数の観光客を吸引しているが、一方では国際的な会議都市としての特徴をも備え、経済効果においては後者の果たす役割は多大である。ヨーロッパを起点とする旅行者が多くを占め、とくにドイツ語圏を起点とするものが全体の4割以上を占めている。アメリカ、日本のようにウィーンから距離的な隔りがある地域からの旅行者は、ヨーロッパ旅行における目的地の一つとしてウィーンを訪れているが近隣からの旅行者は、ウィーンのみを訪問する傾向が強い。また、近隣諸国からの旅行者は、オーストリア観光においてウィーンを必ずしも高い地位においていない。むしろ、ティロルのような自然の景勝地を選好する傾向がある。

ウィーンからの距離がウィーン観光のあり方を決定しているといえる。このことはまた、「オーストリア観光におけるウィーンへの集中」イメージを相対化することになる。

ヨーロッパを起点とするウィーン旅行者の居住地域をみると、ウィーンとの間に航空路が設置されている地域からの旅行者が圧倒的に多い。またLCC路線が設置されている国、地域からは、低運賃航空会社を利用していることも明確である。このことからヨーロッパからのウィーン旅行者にとって、航空路の存在が決定的に重要であるといえる。

注

- (1) 拙稿「都市観光の定量比較——パリ、ミュンヘン、ハンブルクとの比較におけるパリ——」『跡見学園女子大学マネジメント学部紀要』第11号(2011年)〔表2〕参照
- (2) Wiener Tourismusverband, *Wiener Gästebefragung 2004-2009*, Im Rahmen des Tourismus-Minitors Austria (T-MANA), Wien, 2009 (以下WGと略記)
オーストリア観光モニターは、国内すべての州、および調査協力地域において統一的な調査用紙によってアンケート調査を行った。実施された時期とサンプル数は以下の通りである。2004年6月～2005年4月(サンプル数2,117)、2006年5月～2007年4月(サンプル数1,950)、2007年5月～2008年4月(サンプル数1,668)、2008年5月～2009年4月(サンプル数1,090)(WG, p.3)この報告書を刊行しているNPO法人「ウィーン観光協会」(Wiener Tourismusverband しばしばWiener Tourismusと略記される)は、副市長レナテ・ブラウナー(Mag.a. Renate Brauner)が会長職にあり、ウィーン観光に関わる広報・マーケティング支援を行っている。(Wiener Tourismusverband, Fact Sheet, PR- und Marketingagentur für die Wiener Tourismusbranche, Juni 2010)
- (3) WG, p.15
- (4) WG, p.14
- (5) WG, p.14
- (6) この点、フランス観光におけるパリの位置と相似したものである。(拙稿「都市観光の定量比較——ベルリン・ミュンヘン・ハンブルクとの比較におけるパリ——」『跡見学園女子大学マネジメント学部紀要』第11号、2011年)
- (7) Flughafen Wien AG, *Geschäftsbericht 2009*, "Alles, Was Zählt", p.50
- (8) Flughafen Wien, City Airport Train / CAT, in interrete sub: <http://www.viennaairport.com/jart/prj3/va/main.jart?rel=de&content-id=1249344074245&reserve-mode=active>, 30.08.2010 CATは空港ターミナル毎時05分、35分発でウィーン中央まで片道10ユーロであ

- る。(Flughafen Wien, *Flugplan gültig 28.03.2010-30.10.2010*, p.7)
- (9) Flughafen Wien, S-Bahn, in interrete sub: <http://www.viennaairport.com/jart/prj3/va/main.jart?rel=de&content-id=1260752528082&reserve-mode=active>, 30.08.2010 Sバーンも、30分間隔でタクト運行され、ウィーン中央までの料金は3.6ユーロである。(Flughafen Wien, *Flugplan gültig 28.03.2010-30.10.2010*, p.9)
- (10) Hauptbahnhof Wien, Planungen, in interrete sub: <http://www.hauptbahnhof-wien.at/de/Planungen/index.jsp>, 11.09.2010
- (11) Postbus, Vienna Airport Lines, in interrete sub: http://www.postbus.at/de/Regionen/Wien_-_Niederosterreich_-_Burgenland/Vienna_AirportLines/index.jsp, 30.08.2010
- (12) Wiener Linien GmbH & Co KG, *Jahresbericht 2009* 2009年における路面電車乗客数は8億1千180万人、Uバーンのそれは5億1千170万人、バス利用者は1億1千470万人であった。(Ibid.)
- (13) BBC News, Airline Collapse Hits Passengers, in interrete sub: <http://news.bbc.co.uk/2/hi/business/8232362.stm>, 01.09.2009
- (14) 典拠としたのは、2009年夏期スケジュールである。(Flughafen Wien, *Flugplan gültig 28.03.2010-30.10.2010*)
- (15) オーストリアのLCC、インタースカイについては、Intersky, über uns, in interrete sub: <http://www.intersky.biz/de/Ueber-uns/News/page24611.html>, 31.08.2010 その他のキャリアについては、拙著『ドイツ資本主義と空港』日本経済評論社、2009年参照。
- (16) フランスにおける航空ネットワークは基本的に、パリを中心に形成されている。(拙著『ドイツ資本主義と空港』日本経済評論社、2009年、321～322ページ)
- (17) bmi は、ブリティッシュ・ミッドランド航空 (British Midland Airways) が2001年に bmi British Midland ブランドを採用し、その2年後から bmi ブランドによって運行されている航空会社である。2002年には、ローコスト子会社 bmi baby を立ち上げた。2009年7月以降、ルフトハンザの傘下に入っている。(bmi, about us, in interrete sub: <http://www.flybmi.com/bmi/en-gb/about-us/about-bmi/about-bmi.aspx>, 30.08.2010 et bmi, our history, in interrete sub: <http://www.flybmi.com/bmi/en-gb/about-us/about-bmi/our-history.aspx>, 30.08.2010)
- (18) エア・リングス (Aer Lingus) はアイルランドの国営航空会社であるが、ローコスト・モデルを追及するキャリアである。(Aer Lingus, About Us - Company Profile-, in interrete sub: <http://www.aerlingus.com/aboutus/aerlingusmedia/companyprofile/>, 06.09.2010)
- (19) ロシア航空 (Rossiya Airlines) は、サンクト・ペテルブルクを本拠とするロシア国営会社 (Federal State Unitary Enterprise State Transport Company Rossiya) である。(Rosshiya, Russian Airlines - core airline of Saint-Petersburg, in interrete sub: <http://eng.pulkovo/en/about/aboutus/strcrussia/>, 30.08.2010) トランスアエロ航空はモスクワ・ドモジェドヴォ空港を拠点とするロシア最初の民間航空会社である。ロシアの航空会社として、最初にボーイングの機材を導入した。(Transaero Airlines, Company History, in interrete sub: <http://www.transaero.ru/en/company/history>, 04.09.2010)
- (20) Wiener Tourismus, Spanien Marktdatenblatt, in interrete sub: <http://b2b.wien.info/media/files-b2b/marktdaten-spanien>, 31.08.2010
- (21) クリックエア (Clickair) は2008年、ヴェリング航空 (IATA-Code: VY) と統合し、後者が存続会社となった。(Vueling Airlines, S.A., Informe Especial requerido por el Real Decreto 1362/2007, de 19 de Octubre)
- (22) スパンエア (Spanair) は、1997年以降インターコンチネンタル路線を就航し、2002年から SAS グループに加わった。(Spanair, Historia de Spanair, in interrete sub: <http://www.spanair.com/web/es-es/Sobre-Spanair/Informacion-Corporativa/Historia-de-Spanair/>, 07.09.2010)
- (23) Wiener Tourismus, Spanien Marktdatenblatt, in interrete sub: <http://b2b.wien.info/media/files-b2b/marktdaten-spanien>, 31.08.2010
- (24) この時点における居住地別順位において、日本はドイツ、オーストリア、アメリカ合衆国、イタリアに続く第5位で、イギリスを上回っていた。(Wiener Tourismusverband, *Tourismus-Bilanz 2003*, p.17 et Wiener Tourismusverband, *Tourismus-Bilanz 2003~2009*)
- (25) Wien Tourismus, Länderstudie der britischen Städte-, Kultur- und Bildungsreisenden - Executive Summary, in interrete sub: <http://www.2.wien.info/b2b/data/ExecutiveSummaryGBStaetereisende.pdf>, 27.08.2010
- (26) MANOVA GmbH, Gästeprofil Japan, September 2008, p.15
- (27) Wien Tourismus, Japan Marktdatenblatt, p.3, in interrete sub: <http://www.wien-tourismus.at/data/maerkte/japan.pdf>, 27.08.2010
- (28) Wien Tourismus, Japan Marktdatenblatt, p.3, in interrete sub: <http://www.wien-tourismus.at/data/maerkte/japan.pdf>, 27.08.2010
- (29) Wiener Tourismusverband, Fact Sheet, Die Wiener Tourismusindustrie und ihre wirtschaftliche Bedeutung. Juni 2010 (WT, Fact Sheet 2)
- (30) Vienna Convention Bureau, *Wiener Tagungsstatistik 2008*
- (31) Vienna Convention Bureau, *Wiener Tagungsstatistik 2008*, p.8